令和６年度　第２回佐倉市オーガニックビレッジ推進部会　概要

１．日時：令和７年３月 26 日（水）13 時 30 分～15 時
２．場所：佐倉市役所社会福祉センター　地下研修室
３．出席者：農業者３名、事業者１名、消費者２名、JA1 名、千葉県２名、
　　佐倉市５名、事務局４名
　オブザーバー：農林水産省関東農政局印旛沼二期農業水利事業所１名
　　農林水産省関東農政局千葉県拠点３名
４．概要：

○　ポイント ・　令和６年度事業報告及び佐倉市有機農業実施計画における目標達成状況について事務局から説明が行われた。 ・　佐倉市環境保全型農業を進める会への加入審査（計 41 名）について、全会一致で承認された。

（１）議事

ア　報告事項１（令和６年度事業報告）

事務局から資料１に沿って説明を行った。主な質疑応答は以下のとおり。

（質問）各種展示会への出展について、来場者数や売上など、成果はどのようであったか。

（回答）例として、シン・カイリン祭は約２万８千円の売上があり商品は完売、GOODLIFE フェアは来場者数約４万人、佐倉・産業大博覧会は来場者数約７千人で売上は約４万５千円であった。十分な PR 効果があったと考えている。

（質問）有機 JAS 認証取得支援４件の中に、新規に取得した人はいるか。

（回答）新規の方はおらず、４件すべて継続である。

（質問）有機米給食の実施について、かかった費用は慣行米との差額という理解で良いか。

（回答）そのとおり。

（質問）来年度も差額支援は行う予定はあるか。

（回答）来年度も支援を予定しており、15 トン分の掛かり増し経費を予算化している。

イ　報告事項２（佐倉市有機農業実施計画における目標達成状況）

事務局から資料２に沿って説明を行った。主な質疑応答・意見は

以下のとおり。

（質問）面積の増加について、新規が増えたのか既存の人が拡大したのか、何か傾向があれば教えてほしい。

（回答）面積増加の内訳としては、新規就農者と既存の方の面積拡大の両方がある。

（質問）学校給食での有機農産物活用について、使わない学校は何が理由なのか。

（回答）近隣に配送してくれる有機農家がいないことや給食で使いやすい食材が少ないことなどが考えられる。

（意見）小規模校は量が少なく配送が割に合わないので、アプローチが難しい。学校側に配送料を負担してもらうしかないのでは。

（意見）逆に少量しか受注できない農家もいて、例えば弥富では直売所を介して学校に納入しているケースもある。

（意見）栄養士と農家とのネットワークが上手くつながって行けば良いと思う。

（質問）有機米の面積が増加しているが、販路など大丈夫なのか。

（回答）有機米の生産者はそれぞれ販路を有しており、学校給食での活用も進んでいるので、問題ないと思う。

（質問）佐倉市有機農業実施計画について、令和９年の目標値をすでに達成しているものが多いが、計画の見直し予定はあるか。

（回答）市外への販路拡大などを明記することを含め、次年度以降、推進部会で検討すべきだと考えている。

ウ　議案「佐倉市環境保全型農業を進める会　加入審査」

事務局から資料３に沿って説明を行った。主な質問は以下のとおり。

（質問）確認項目については事務局で確認していることでよいか。

（回答）事務局で書類確認や現地確認を行っている。

（質問）会員資格は期間の定めなく有効とのことだが、一度会員になったらその後は営農状況の確認などはしないのか。

（回答）加入及び継続のハードルを下げるため、期間の定めなく有効としているが、年に一度、営農状況を確認する予定で考えている。

（質問）今後の活動予定などは何かあるか。

（回答）本日、推進部会の終了後に、設立総会を開催予定。具体的な活動内容については、会員の意見を踏まえながら会で検討

していく。

（質問）正会員 19 名は、全員、環境保全型農業直接支払交付金に申請しているのか。

（回答）申請している方もそうでない方もいる。

（２）その他

事務局から、参考資料に基づき、令和 7 年度から実施予定の有機農業支援に関する新規事業について説明を行った。

（以上）